

研究発表を行うにあたって

明星小学校では、「『賢さ』と『豊かさ』を兼ね備えた、輝きを持った人の育成」を目指しています。そこで、算数のよさや美しさ、考える楽しさを味わうことができる学びを「深い学び」と捉え、主体的・対話的で深い学びを通して子どもたち一人ひとりの資質・能力を育成する算数授業の在り方を研究してきました。その研究成果を、授業を通して発信したいと思います。教師が変わると授業が変わる、授業が変わると子どもが変わることを実感しています。教師自身が算数の本質に迫る活動を楽しむ心、算数のよさや美しさを楽しむ心、子どもと関わりながら一緒に授業を創り上げていくことを楽しむ心をもって授業に臨んでいくこと、そして、授業力を鍛えることが大切であると考えています。数多くのご感想やご意見をいただきながら、さらに研究を続け、広げ、深めていきたいと思っています。

明星小学校 校長 細水保宏

研究の経緯と成果

昨年度までの研究で児童が問題を解決し、新たな問いを自ら追究しようとする姿を引き出すためには、問題提示場面、考えを共有する場面、新たな問いを生む場面において、教師が手立てをとることで促されることが明らかになった。問題提示（**KEYQUESTION**）、考えの共有（**SHARING IDEAS**）、新たな問いを生む（**NEW QUESTIONS**）、追究する（**INQUIRY INTO THE QUESTIONS**）という学習過程を **MIL（MEISEI INQUIRED LEARNING）**とし、単元の随所に意図的にその学習過程を取り入れてきた。一定の効果が見られたこの学習過程を他教科においても取り入れることで、児童にとってより学ぶ楽しさを感じさせ、自ら追究しようとする姿を引き出していこうと考えた。また、考えを共有させるという部分について、共有するための手立てを、より資質・能力を高める視点として「見方・考え方」を働かせるための手立てと変更した。

まだ研究の途上ではあるが、それぞれの教科に当てはめてみたときに、算数や国語といった教科固有の手立てと、共通する手立てがあることが明らかになってきた。

《教科固有の手立て》

「解きたい」と思えるための手立て
○初発の感想とその共有(国語)
○繰り返し出てくる言葉などへの
 焦点化(国語)
○条件の過不足、過多(算数、理科)
○時系列、因果関係への着目(理科)
○基礎感覚を育む(体育)
○能力に合わせた問題設定
 (図工、家庭科、音楽)

「見方・考え方」を働かせるための手立て
○イメージを絵でかかせたり、
 モデル化を行ったりする(理科)
○運動観察、鑑賞による気づき
 (体育、家庭科、音楽、図工)
○絵やジェスチャー(非言語)で表す
 (英語)

「新たな問い」を生むための手立て
○一般化できるかどうかについて
 考える(理科、算数)
○操作、実験の言語化(理科、算数)
○必勝法を考える(算数)
○場づくり、仲間づくり(体育)
○よりよい作品づくりへの意識
 (音楽、図工、家庭科)

※共通する手立てはリーフレットの **MIL** の部分を参照されたい。

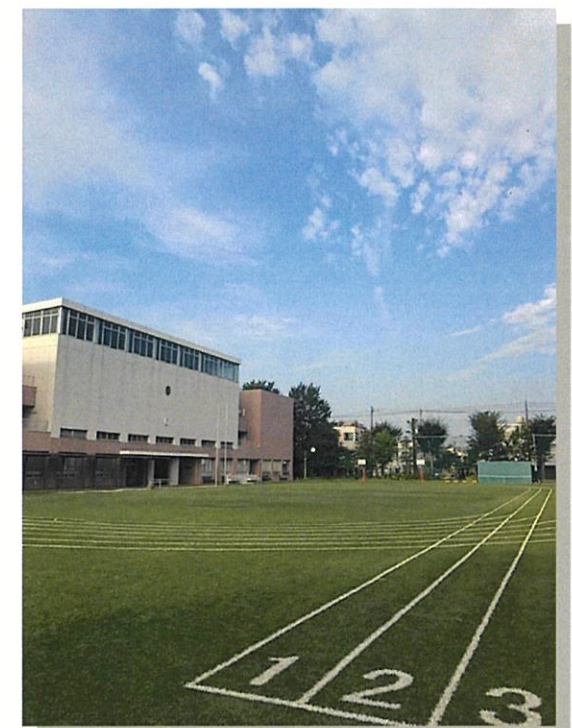
まだ、深めきれていない部分もあるので、来年度は **MIL** の学習の過程にこの手立てをどの教科でも取り入れていく中で、新たな手立てを探ったり、今考えている手立ての有効性について検証したりしていきたい。

2022年度研究発表会

Smartness

「賢さ」と「豊かさ」を 兼ね備えた輝きをもった子どもの育成

Affluence



2023年2月4日(土)

MEISEI
ELEMENTARY SCHOOL

MIL (MEISEI INQUIRED LEARNING)

Point of view I

KEY QUESTION

あれ？
どういうことかな？



子どもが「解きたい」と思える問題提示

「解きたい」と思えるための手立て

- 思考のズレを生む
 - 身近な題材（実物、資料の提示）
 - 未習と既習（できること・できないこと）の整理
 - 比較する
 - ゲーム化する
 - 児童の思考と逆の立場をとる（誤概念の提示）
 - 視覚化
 - 他教科との関連付け
- など

Point of view II

SHARING IDEAS

なんだかおもしろそう！

「見方・考え方」を学級全体のものとして理解を深めるための共有

「見方・考え方」を働かせるための手立て

- 考え（イメージ・予想）の根拠を問う
 - 「見方・考え方」に関わる発言（つぶやき）の問い返し・価値付け
 - 同じ「見方・考え方」で教材を捉える場の設定
 - 「見方・考え方」の違いの明確化
 - 誤答の扱い
- など

Point of view III

NEW QUESTIONS

この時はどうかな？



「問い」を広げたり深めたりして「新たな問い」を生む

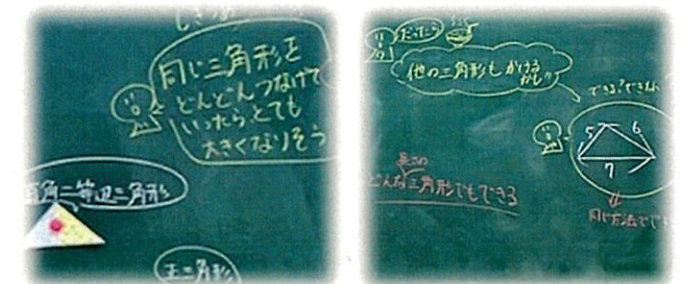
「新たな問い」を生むための手立て

- 練習問題（発展問題）による定着
 - 思考のズレ（考えの違い）を明らかにする
 - 限定的な結論付け（まとめ）
 - 「だったら」でつなぐ問題づくり
 - 将来、日常、他学年などへの結び付け
 - 条件の振り返り
 - 問題場面に不確かな部分を入れる
- など

Point of view IV

INQUIRY into the QUESTIONS

同じ考えが使えるそう！



問題の追究（日常生活・数学の世界）

- ・学級で追究する「新たな問い」
- ・個人で追究する「新たな問い」

問いの連続性

